



## 平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年10月10日

上場会社名 株式会社ヤマダ・エスバイエルホーム 上場取引所 東  
 コード番号 1919 URL http://www.sxl.co.jp  
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 松田 佳紀  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管財本部長 (氏名) 岩崎 和行 TEL 06-6242-0555  
 四半期報告書提出予定日 平成25年10月11日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年2月期第2四半期の連結業績（平成25年3月1日～平成25年8月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	21,798	24.7	△715	—	△701	—	△731	—
25年2月期第2四半期	17,486	—	△947	—	△935	—	△981	—

(注) 包括利益 26年2月期第2四半期 △732百万円 (—%) 25年2月期第2四半期 △966百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第2四半期	△3.59	—
25年2月期第2四半期	△4.82	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年2月期第2四半期	38,401	10,068	26.1	49.09
25年2月期	38,209	10,798	28.1	52.69

(参考) 自己資本 26年2月期第2四半期 10,008百万円 25年2月期 10,738百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年2月期	—	0.00	—	—	—
26年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年2月期の連結業績予想（平成25年3月1日～平成26年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	53,500	34.2	350	—	300	—	200	—	0.98

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無  
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年2月期2Q	203,943,184株	25年2月期	203,882,184株
② 期末自己株式数	26年2月期2Q	62,294株	25年2月期	58,573株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年2月期2Q	203,844,777株	25年2月期2Q	203,756,061株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	8
(5) セグメント情報等 .....	8
4. 補足情報 .....	9
受注及び販売の状況（連結） .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の打ち出す各種経済対策や金融緩和策等のいわゆる「アベノミクス」効果に対する期待感から円安傾向となり株式市場も活況を呈する等、企業業績や景気の先行きに明るさが見られる状況となりました。

住宅市場におきましては、景気回復に伴う雇用と所得改善に対する期待感等から、住宅取得または不動産投資意欲の高まりが見られるところとなりました。また、住宅ローン控除や税制優遇策等、各種住宅関連政策の効果が影響し、更に消費税増税前の駆け込み需要も加わり、新設住宅着工戸数の増加が継続する状況でありました。

このような事業環境のもと、当社グループは、資本提携先である株式会社ヤマダ電機との連携をより一層強化し、知名度および信用力の向上を図ると共に、顧客獲得機会の増強を図るため、6月1日付けで株式会社ヤマダ・エスバイエルホームに社名を変更しました。

また、6月14日に創業63年目を迎えた最も長い歴史を有する住宅メーカーとして、原点回帰を図り、小堀住研時代の社是を再確認し制定した企業理念「常にお客様目線で技術の研鑽に努め、創造と挑戦の精神をもって、豊かで快適な住まいづくりに貢献します。」の基、ES・CSの向上を中心としたCSR経営を推進し、「原点へ、そして本質へ」を合言葉に企業価値の向上に努めました。

営業施策面におきましては、株式会社ヤマダ電機店舗内の住まい専用ブース「トータルスマニティライフコーナー」の全国展開や、チラシ広告、テレビCM、フェア等の各種広告媒体において株式会社ヤマダ電機とのコラボレーションを強力に訴求しました。

また、展示場の積極的展開を推進し、都市部における3階建て市場への本格参入の為、8月には、都市型3階建住宅「Villenz(ヴィレンツ)」を豊洲展示場にオープンしました。

更に、当社と学校法人片柳学園(日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校)の産学連携により、日本工学院八王子専門学校八王子キャンパス内に最新のスマートハウス実習棟を新設し、関連する技術者の育成・研究開発やスマートハウスの普及拡大等を目指した取り組みを開始しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は217億9千8百万円(前年同期比24.7%増)、営業損失は7億1千5百万円(前年同期比2億3千1百万円改善)、経常損失は7億1百万円(前年同期比2億3千4百万円改善)、四半期純損失は7億3千1百万円(前年同期比2億4千9百万円改善)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### [住宅事業]

当社グループの主力事業である住宅事業につきましては、「原点回帰」をスローガンに、優れた設計力・デザイン力・提案力を活かした商品戦略を展開しました。

具体的な新商品戦略としては、「中高級商品」と「コストパフォーマンスに優れた商品」の2路線を基軸に展開しました。「中高級商品」第1弾では、今の時代に呼応する“美しい家、美しい暮らし、美しい空気”をコンセプトとした「E-CHERIE(E-シェリエ)」を、創業63年目を迎えた創立記念日の6月14日に発売しました。また、「コストパフォーマンスに優れた商品」のラインナップ拡充を目的として、空間をかしこく使う「Smart収納」を取り入れた「eスマイル・プラス アルファスタイル」を8月10日に発売し、アッパーミドル層及び1次取得者層等の取り込み注力しました。

以上の結果、売上高は180億5千7百万円(前年同期比31.8%増)となり、営業損失は2億3千7百万円(前年同期比4億6千2百万円改善)となりました。

#### [リフォーム事業]

リフォーム事業につきましては、オーナー様を対象とした受注活動に加え、他社施工物件への受注活動、昨年来全国で設置を進めてきた株式会社ヤマダ電機店舗内の「トータルスマニティライフコーナー」を経由した営業活動を展開しました。お客様情報の入手ルート拡大や株式会社ヤマダ電機との役割分担の明確化と効率化を図った結果、受注高は前年実績を約12%上回り、受注残高も前年同期比約54%増となりましたが、工事進捗の遅れ等により、売上高は34億7千6百万円(前年同期比2.5%減)となり、他社施工物件比率が上がったことにより原価率が上昇した結果、営業損失は5千4百万円(前年同期比2億3千万円悪化)となりました。

#### [不動産賃貸事業・その他の事業]

不動産賃貸事業につきましては、売却による賃貸物件の減少等により、売上高は1億9千4百万円(前年同期比4.6%減)となり、営業利益は9千3百万円(前年同期比13.2%減)となりました。

その他の事業につきましては、新規に売電事業を開始したこと等の影響により、売上高は6千9百万円(前年同期比261.2%増)となり、営業利益は3千2百万円(前年同期比151.7%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における資産総額は、前連結会計年度末に比べて1億9千2百万円増加し、384億1百万円となりました。その主な要因は、受注数の増加に伴い、未成工事支出金が5億2千7百万円増加、メガソーラー設備の取得等により、有形固定資産が4億9千6百万円増加、また、分譲用地の販売が進捗したことにより、販売用不動産及び仕掛販売用不動産が合わせて10億4千万円減少したことによるものであります。

負債総額は、前連結会計年度末に比べて9億2千2百万円増加し、283億3千2百万円となりました。その主な要因は、金融機関からの借入債務が7億9千万円減少したものの、受注の増加に伴い未成工事受入金が6億6千1百万円増加し、展示場及びメガソーラー設備の一部をリースに切り替えたことにより、リース債務が9億3千2百万円増加したことによります。

純資産合計は四半期純損失7億3千1百万円の計上等により、前連結会計年度末に比べて7億3千万円減少し、100億6千8百万円となりました。自己資本比率は26.1%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の連結業績予想につきましては、平成25年10月7日に開示しております「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

当社及び一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

### 3. 四半期連結財務諸表

#### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	2,614	2,828
受取手形・完成工事未収入金等	4,125	4,218
未成工事支出金	518	1,045
販売用不動産	8,789	10,399
仕掛販売用不動産	6,585	3,934
材料貯蔵品	396	567
その他	672	465
貸倒引当金	△106	△66
流動資産合計	23,595	23,392
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,684	9,335
土地	8,027	7,940
その他	1,688	2,544
減価償却累計額	△6,416	△6,340
有形固定資産合計	12,984	13,480
無形固定資産		
投資その他の資産	346	318
その他	2,167	2,013
貸倒引当金	△884	△803
投資その他の資産合計	1,282	1,209
固定資産合計	14,613	15,008
資産合計	38,209	38,401
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	5,934	5,926
短期借入金	15,790	15,000
未払法人税等	89	58
未成工事受入金	1,505	2,166
賞与引当金	56	60
完成工事補償引当金	232	249
工事損失引当金	—	6
その他	1,806	2,011
流動負債合計	25,414	25,479
固定負債		
退職給付引当金	203	232
資産除去債務	236	256
その他	1,555	2,364
固定負債合計	1,995	2,852
負債合計	27,410	28,332

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,064	9,066
資本剰余金	1,096	1,098
利益剰余金	44	△687
自己株式	△7	△8
株主資本合計	10,197	9,469
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13	10
土地再評価差額金	528	528
その他の包括利益累計額合計	541	539
新株予約権	2	1
少数株主持分	58	59
純資産合計	10,798	10,068
負債純資産合計	38,209	38,401

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
売上高	17,486	21,798
売上原価	13,136	16,931
売上総利益	4,349	4,867
販売費及び一般管理費	5,297	5,582
営業損失(△)	△947	△715
営業外収益		
受取利息	3	2
受取賃貸料	10	17
解約金収入	6	18
補助金収入	—	38
その他	38	27
営業外収益合計	58	105
営業外費用		
支払利息	37	75
その他	9	15
営業外費用合計	46	91
経常損失(△)	△935	△701
特別利益		
固定資産売却益	0	31
新株予約権戻入益	0	—
特別利益合計	0	31
特別損失		
固定資産売却損	—	18
固定資産除却損	4	—
特別損失合計	4	18
税金等調整前四半期純損失(△)	△939	△688
法人税、住民税及び事業税	39	40
法人税等調整額	0	1
法人税等合計	40	42
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△979	△730
少数株主利益	1	1
四半期純損失(△)	△981	△731



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△979	△730
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2	△2
繰延ヘッジ損益	10	—
その他の包括利益合計	13	△2
四半期包括利益	△966	△732
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△968	△733
少数株主に係る四半期包括利益	1	1

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	住宅事業	リフォーム事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	13,697	3,565	203	17,466	19	17,486	—	17,486
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11	—	1	12	—	12	△12	—
計	13,708	3,565	205	17,479	19	17,498	△12	17,486
セグメント利益又は損 失(△)	△699	176	107	△415	13	△402	△545	△947

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△545百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	住宅事業	リフォーム事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	18,057	3,476	194	21,728	69	21,798	—	21,798
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15	—	1	17	—	17	△17	—
計	18,073	3,476	196	21,746	69	21,816	△17	21,798
セグメント利益又は損 失(△)	△237	△54	93	△197	32	△165	△550	△715

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険事業及び売電事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△550百万円は、報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

#### 4. 補足情報

受注及び販売の状況（連結）

##### (1) 受注状況

当第2四半期連結累計期間における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

なお、当社グループ（当社及び連結子会社）では住宅事業及びリフォーム事業以外は受注生産を行っておりません。

セグメントの名称	受注高		受注残高	
	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	前年同 四半期比 (%)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)	前年同 四半期比 (%)
住宅事業（百万円）	23,156	132.9	22,699	130.2
リフォーム事業（百万円）	4,068	112.0	2,123	154.1
合計（百万円）	27,224	129.3	24,823	131.9

##### (2) 売上実績

当第2四半期連結累計期間における売上実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)	前年同四半期比 (%)
住宅事業（百万円）	18,057	131.8
リフォーム事業（百万円）	3,476	97.5
不動産賃貸事業（百万円）	194	95.4
報告セグメント計（百万円）	21,728	124.4
その他の事業（百万円）	69	361.2
合計（百万円）	21,798	124.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3. 当社グループでは生産実績を定義することが困難であるため「生産の状況」は記載しておりません。